

1 情報教育の取組について

1 はじめに

市情報教育研究の各部会は、平成19年度より、本市のICT活用研究の中心として活動し、毎年少しずつその活動の成果を蓄積してきている。けやきネット活用研究部会においては、本年度小中学校へ追加導入した電子黒板等の機器を使用した授業の事例を集め、「電子黒板等活用事例集」をまとめた。情報モラル教育研究部会では、毎年継続して情報モラルに関する授業研究会を行っており、授業の内容や使用した教材等について協議し、その内容を各校へ紹介している。本年度も南河内第二中学校で授業を実施し、本集録にまとめた。教職員の校務の負担軽減を目指した教育情報化支援事務部会においても継続して研究を進めてきている。

今後とも各部会は「情報教育推進計画」に基づいて活動し、児童生徒が情報を主体的に選択・活用できる能力を育むとともに、特に情報モラルの育成に力を入れていく予定である。その際には本年度末に子ども未来プロジェクトの活動によって完成した、下野市のネット利用の当たり前「4つの大丈夫？」を使つての指導を進めていく予定である。

2 下野市情報教育推進計画（平成28年度）

○ 基本方針及び研究推進の方向性

* 各項目の番号は市学校教育計画の番号と同じ。

<p>(1) - ①③情報モラル教育の計画的推進</p>	<p>(1) - ②PC活用技能の習得強化</p>
<p>○情報モラルに関する授業の実践(授業公開) ・情報モラル育成資料の活用(市として活用しやすい内容への見直し) ・情報モラル教育実践ガイダンスの活用 ○啓発リーフレット(指導資料)の活用 ◎各校での情報モラル教育の推進</p>	<p>○PC操作時間確保の工夫(年計の確認・見直し:市で行ったものを参考に) ※小学校中学年で文字入力などの基本的な操作を身に付ける。 ※小学校高学年で情報モラルを身に付ける。 ※中学校で情報活用能力を身に付ける。</p>
<p>(2) ICT機器の活用による授業実践</p>	<p>(3) - ①電子化による校務処理の効率化</p>
<p>◎日常的なICT機器の活用実践 ・PC, 電子黒板, デジタルテレビ, デジカメ, プロジェクター, 実物投影機, タブレット等 ※特に電子黒板の活用。 ○これまで蓄積してきたコンテンツの紹介と活用促進・事例収集(コンテンツの整理)</p>	<p>◎通知表・指導要録・指導要録抄本のデータの一元化(WinBird活用) ○すぐメールの活用促進 ○事務手続き関連「たすかるくん」の活用</p>
<p>(3) - ①市教育情報ネットワーク(けやきネット)の効果的活用</p>	<p>(3) - ②情報セキュリティの確保</p>
<p>○校務支援ソフト(WinBird)の活用促進 ・連絡板, 掲示板, メッセージ等の活用 ・児童名簿管理の活用 ・各種テンプレートの活用等 ○ホームページの更新(Webコア)</p>	<p>○ガイドライン等の周知・徹底 ○情報漏洩の防止 ○保存データのバックアップについて(特に画像・映像の保管について) ○サーバの管理</p>

2 各部会の取組

1 けやきネット活用研究部会

(1) 研究テーマ

電子黒板等を活用した「教育の情報化」の推進

(2) 研究内容

電子黒板等を活用した研修及び授業の実施

本年度、小学校には電子黒板機能内蔵型プロジェクターが導入された。また中学校にはディスプレイとタブレット PC のセットが導入された。「教育の情報化」が進む現代においては、これら電子黒板等の活用の機会や場面を増やし、よりわかりやすい授業を展開していくことが必要であると考えられる。電子黒板等を活用した研修を行うとともに、授業実践を行い、その事例を紹介することで、先生方の日々の教育活動の一助になればと考え研究内容に設定した。



【わかりやすく説明する場面】



【児童生徒が発表する場面】

(3) 成果と課題

- 夏季休業中に ICT 活用研修を設け、電子黒板等を活用した研修を行った。
- 各校の情報教育担当者に協力を呼びかけ、電子黒板等を利用した授業の実践を依頼した。
- 本年度導入された電子黒板等の台数に限りがあるため、すべての教員及び、すべての教科による活用状況は十分であるとは言えない。
- 本年度行われた電子黒板等の活用事例を紹介し、他の学校や他の教科での授業に活用できるようにしたい。

(4) 次年度に向けて

電子黒板等の活用事例の収集は今後も続けていき、より多くの先生方に参考にしていただけるように、けやきネット等で紹介していきたい。また、けやきネット上にある学習教材コンテンツの紹介も行い、より多くの先生方に活用していただけるように呼びかけ、「教育の情報化に伴った、分かる授業」を推進していきたい。



【児童生徒に考えさせる場面】



【興味・関心を高める場面】



【明確に伝える場面】



【実演でやり方を示す場面】



【知識・スキルを定着させる場面】

2. わかりやすく説明する

単元・教材名 秋の生き物	学年 小(4)年	教科等 理科
-----------------	-------------	-----------

活用のねらい：
拡大した画像に丸をつけ、生き物がどこにいるのか示す

電子黒板(対応) ノートPC 77インチPC 实物投影機 タッチ列挙 タッチ列挙列挙
 以外の使用機器 タッチ列挙教科書 Hi, friends! その他()

<利用機能>
・タッチ ・書き込み ・拡大 ・保存



活用のポイント

- 説明しながら書き込むことで、わかりやすく説明させるようにした。
- 拡大もできるので、生き物の様子を詳しく確認できる。
- 現実的に確認できることで、意欲や関心が高まる。

電子黒板等活用事例集の例→
(2. わかりやすく説明する)

2 情報モラル研究部会

(1) 研究内容

子どもたちを取り巻く情報にかかわる環境は日々変化している。多くの子どもたちが、コンピュータや携帯電話・携帯型ゲーム機などを幼い頃から使用している。学校教育の現場でも情報機器はその機能を発揮し様々な場面で学習・生活指導に活用され、情報社会に積極的に参画する態度を育てることは今後ますます重要になってきている。その反面、複雑化する機能の影で、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報などの問題が発生している。そのため情報社会の特性の一側面である影の部分を理解し、情報手段をいかに上手に賢く使っていくか、判断力や心構えを身に付けなければならない。本部会では市全体の情報モラルの教育の向上を目指すべく、情報モラルに関する授業を毎年行い、各学校での指導に役立てることとした。

(2) 授業実践および情報モラル啓発資料の紹介

①南河内第二中学校での授業実践 坂本 匡 教諭

1 主題名 主として他の人とのかわりに関すること 2-(3)

2 資料名 「みんなに合わせる友情」

3 ねらい コミュニケーションアプリのグループトークのトラブルを通して、情報機器の特性に気付くとともに、友情の尊さや励まし合おうとする心情を育てる。

4 本時の展開 中心発問 ◎学校課題との関連 ○人権教育上の配慮

時間	学習活動と主な発問	指導上の留意点	資料等
導入	5 スマホや無料通話アプリを使用した経験はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の使用経験など話題にし、意識を向けてから視聴させる。 必要に応じて、無料通話アプリについて簡単に説明をする。 	
展開	5 前半の映像を見て、価値を追求する。 コジマ君は、このあとどうしたらよいでしょうか。理由も考えてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> コジマくんの立場に立って視聴させる。 	PC、TV
	10 <ul style="list-style-type: none"> 友達だから、そういうことを書くのはやめようと伝える。 自分もターゲットになってしまうから、みんなに同調する。 	<ul style="list-style-type: none"> コジマとナナミが友達であることを押さえておく。 	ワークシート
	5 後半の映像を見る。 どうして、仲間はずれにしたり、悪口を言ったりしてしまうのだろう？		
	3 個人でワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えを記入させる。 	
	7 グループで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 自分を守るために、自分の気持ちにそぐわなくても、みんなに合わせようとしてしまう。 顔が見えないのでエスカレートしてしまう。意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎グループになって、お互いの考えを共有する。 ○発言を共感的にとらえる。 ・本当の友達とは何なのかを考えさせたい。 ・いろいろな視点からこの問題について意見を言わせることで、スマホや無料通話アプリの問題点についても意識させたい。 	
9	1 最後の映像を見る。		
終末	5 今日の学習で考えたことを書いてみよう。 学習した価値についての振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りとして考えたことをワークシートに書かせる。 	ワークシート

ア 生徒の変容・気付き

- ・先生の「どうしたらよいか」の問いに対し、最善を考えている姿があった。
- ・グループになると活発な意見が出ていた。グループ内での意見の共有化ができていた。
- ・他の人の意見をメモしながら聞いている生徒が多かった。
- ・理由をつけて意見を書いたり発表したりできていた。
- ・正論を書いている生徒もいた（本音を出していない）。
- ・「人間ってめんどくさいな」という本音を出している生徒もいた。
- ・内容が身近なものなので少し重い雰囲気があり、活発な意見交換とはなりにくかった。
- ・中心発問では人間の中にあるマイナスな面に目を向けていた。

イ 授業展開において良かった点

- ・導入で意欲を高める工夫がされ、生徒が授業に集中できた。
- ・映像を分割して提示することで、分かりやすく、考えやすくなった。
- ・映像の中の問題点を考えさせる部分を使った展開ができた。
- ・問いかけのタイミングがよかった。
- ・一人一人の意見を大切に授業を展開していた。
- ・身近なSNSを題材としたことで、自分のこととしてとらえることができた。
- ・本音を書いている生徒が多数みられた。



②情報モラル啓発資料の紹介

今年度は、情報モラル教育の資料として、下の冊子やリーフレットが配布された。発達段階や各校の現状に応じて自校化し、学級活動や道徳の時間、保護者会等においてぜひ活用していただきたい。



(3) 成果と課題

- 下野市の「情報通信機器使用の約束」である「ネット利用の当たり前」が完成したので、学校と家庭が連携して情報モラルや安全な使い方ができるよう指導していく。
- 市内の小・中学校でも SNS 等を用いたいじめや、心ない書き込みの問題が発生している。各校の情報モラルの指導計画を小中を一貫して指導できるよう、早急に組み立てていかななくてはならない。
- 情報モラル啓発資料（リーフレット）は、学級活動などで活用していくとともに、保護者向けについては、学年・学級懇談時に説明を加えて配布するなど、効果的に活用していきたい。